

AUTOMATICA 2016

ファイナルレポート

国際オートメーション・メカトロニクス専門見本市

2016年6月21日～24日

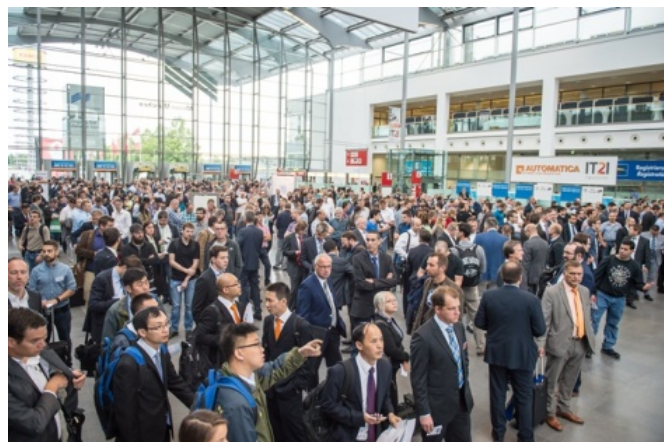
ドイツ・ミュンヘン見本市会場

2016年6月24日

激しい競争の中で—AUTOMATICA2016 未来 4.0 を見せる

Summary

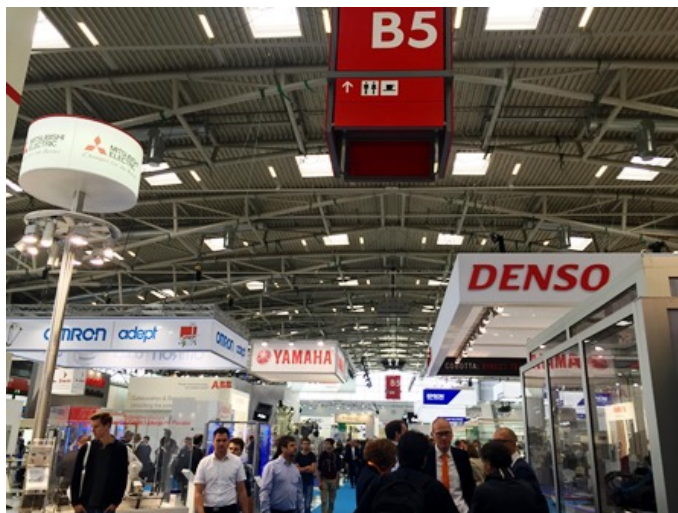
- 来場者数に大きな伸び: 30%増
- 国外からの記録的な参加者数
- 主要テーマ:
デジタル化、ワークプレイス 4.0、
サービスロボット



Facts & Data

会 期	2016年6月21日(火)～24日(金) 9時～17時
会 場	ドイツ・ミュンヘン見本市会場
主 催	メッセ・ミュンヘン(Messe München GmbH)
後 援	ドイツ機械工業連盟(VDMA) ロボット・オートメーション工業会
規 模	55,000 m ² (=全5ホール)
出 展 社 数	47ヶ国から839社(2014年度42ヶ国から724社)
来 場 者 数	約45,000人(2014年度34,493人)
主 な 出 展 品	組立・操作技術、ロボット、マシンビジョン、ポジショニングシステム、駆動技術、センサー技術、制御システム技術、安全技術、サプライ技術、ソフトウェア、サービス、研究・技術開発 など
併 催 プ ロ グ ラ ム	AUTOMATICA フォーラム、 サービス ロボティクス デモンストレーションエリア&ショー、 Workshop on robotics law、OPC Congress、 International Symposium on Robotics など
同 時 開 催 メ ッ セ	intersolar EUROPE 206(ソーラー技術専門見本市・会議)
出 展 日 本 企 業 (現法出展など含む)	(株)アイエイアイ、iREX 国際ロボット展((一社)日本ロボット工業会/日刊工業新聞社)、 (公財)大田区産業振興協会、大田精工(株)、オムロン(株)、ORiN 協議会、川崎重工業(株)、(株)川渕機械技術研究所、(株)キーエンス、セイコーエプソン(株)、(株)ダイヘン、ダイヤ精機(株)、ツバメ無線(株)、(株)デンソー、THK(株)、(地独)東京都立産業技術研究センター、 東芝機械(株)、ナブテスコ(株)、日本トムソン(株)、パナソニック(株)、(株)日立ハイテクノロジーズ、平田機工(株)、ファナック(株)、(株)不二越、三菱電機(株)、武蔵エンジニアリング(株)、(株)安川電機、ヤマハ発動機(株) ほか
専 用 U R L	www.automatica-munich.com (英語、ドイツ語)

AUTOMATICA 2016(6月21~24日)は予想を上回り、来場者は約45,000人(+30%)、出展企業47か国から839社(+16%)を記録した。海外から訪れた来場者は三分の一を占めた。マネージングディレクターのファルク・ゼンガーは、「AUTOMATICAは新たな局面を迎えた。同見本市は、デジタル化、人型ロボットとの連携、専門的なサービスロボットへの深い洞察を与えてくれただけでなく、製品の未来を見せてくれた」と話した。



VDMA Robotics + Automation(ドイツ機械工業連盟)のマネージングディレクターであるパトリック・シュヴァルツコプフ氏は、「AUTOMATICA 2016は全ての記録を更新した。特に、海外来場者数が急増した。なんと50%以上の増加だ!」と述べた。

オートメーションとロボティクスがそもそもインダストリー4.0を可能にしてくれる。見本市では、テーマのおかげもあってかすさまじいエネルギーを感じることができた。VDMA Robotics + Automation 会長でありVITRONIC社業務執行社員であるノルベルト・シュタイン博士は、「AUTOMATICAの来場者の質はまた一段と上がった。そして、彼らはブースで技術分野における一流の専門家と会うことができる。双方のレベルが高いのは珍しい」と説明した。

IT2IndustryとAUTOMATICA: オートメーションとITのためのプラットフォーム

オートメーションとITは将来に向け手を組もうとしている。このための珍しいプラットフォームを提供しているのが、IT2Industryだ。バイエルン州経済・メディア・エネルギー・技術省大臣イルゼ・アイグナー氏は、見本市を訪問中の印象についてこのように語った。「我々はインダストリー4.0に向け、主要なサプライヤかつ市場をリードするようになりたい。この目標に向かって、定期的に発展状況を理解し、国際的な人脈を築いていくために国際市場は絶対不可欠だ。そうした中、メッセ・ミュンヘンがAUTOMATICAでIT2Industryというプラットフォームを提供し、デジタル化をその主なテーマとしていることを大いに歓迎している。結果として、ドイツをインダストリー4.0の主要国家にしていくためにもAUTOMATICAは非常に重要な意味を持っている」

発展するサービスロボット



AUTOMATICAで大きく数を増やしていたのがサービスロボットだ。これらサービスロボットは、未来の日常生活を知るための興味深い洞察を与えてくれた。例えば、病院の介護車やデパート向けの棚卸用ロボット、無人輸送システムや人のアシスタントとしてのサービスロボットなどだ。Silicon Valley Robotics社マネージングディレクターのアンドラ・キ氏は感銘を受け、このように述べた。「AUTOMATICAはロボティクス分野の専門家が集まる素晴らしい場所だ。サービスロボットの領域やスタートアップ企業に大きく力が注がれていることに非常に驚いた」

スタートアップ: AUTOMATICAで見る業界の未来

AUTOMATICAはスタートアップ企業の市場になりつつある。世界中からの新規参入企業がSTART-UP Worldエリアにて出展した。ファルク・ゼンガーは確信している。「スタートアップ企業と既存企業間の交流により、流行が生み出される。メッセ・ミュンヘンはこの貴重なコミュニケーションプラットフォームを支援、推進している」

Robert Bosch Start-up社のマネージングディレクター、ペーター・グーゼ氏は、「大手ロボティクス企業と、小規模企業、そしてスタートアップ企業が混ざり合うことで、見本市がとても刺激的なものになる。AUTOMATICAは間違いなく、欧州一のオートメーション見本市だと思う」

中国からの出展社、来場者が増加

中国からの関心はこれまで以上に高かった。来場者と出展社の数は 3 倍以上となった。中国のオートメーションブームは、AUTOMATICA でもいっそう顕著になってきている。中国だけで計 13 の代表団が訪れた。

中国ロボティクス工業連盟 (CRIA) 総書記のソン・シャオガン氏は、「AUTOMATICA は間違いなくオートメーションとロボティクス分野で有数の見本市の一つであり、中国の来場者や出展社に対し、力強い印象を与えてくれる。交流を通じ、CRIA 代表団は、オートメーションとロボティクスにおける中国とドイツの協力関係の未来は明るいと考えている」と話した。

ワークプレイス 4.0 一人が中心に

新たな生産方法—新たな作業過程: ワークプレイス 4.0 は AUTOMATICA での主要テーマだ。将来的には、人と機械がチームを組んで共に働きたろう。人は心の知能指数に焦点を当て、ロボットはそれに力を添える。労働歴史未来研究所の設立者であり、Human Resources at Volkswagen 社で長年グループ長を務めてきたホルスト・ノイマン博士はこのように説明した。「工場での労働は徐々に厳しさを増しつつある。その結果、労働者にはさらにスキルが必要とされており、私たちはそれを改善していかなければならない。そうした中で、AUTOMATICA のような見本市は人々の目を覚ますことで貢献してくれている」



出展社と来場者にとってさらに重要さを増す見本市

あふれかえるホールと素晴らしい雰囲気: 96% の出展企業と 98% の来場者が、同見本市を極めて良い、非常に良い、または良いと評価した。68% の来場者が、同見本市について、今後重要性が増すと思う、と回答している。80% の出展企業が再出展を予定している。

若者を支援

新しいイベント形式である「Makeathon」によって、AUTOMATICA はそのターゲット層を新たに広げつつある。140 人以上の参加者 (その大半がコンピュータサイエンス、ロボティクス、メカトロニクス分野にてチームで研究をしている学生) が、24 時間以内に機能的ハードウェアのプロトタイプを開発した。このプロトタイプは高齢者用の自動靴から、生産ラインの完全なデジタルファクトリー、そして、消費者一人一人のニーズ (重さや活動レベルなど) に応えたテーブルタップ生産まで多岐にわたる。

次回の AUTOMATICA は 2018 年 6 月 19 日~22 日に、ドイツ・ミュンヘンにて開催される。

詳細情報ならびに写真は、専用ホームページ www.automatica-munich.com で

資料請求、出展申込み、各種お問い合わせ先:

メッセ・ミュンヘン 日本代表部

株式会社メッセ・ミュンヘン・ジャパン

〒105-0001 東京都港区虎ノ門 3-20-3 ノアーズアーク虎ノ門 5 階

Tel.: 03-6402-4583 Fax: 03-6402-4584 E-mail: info@messe-muenchen.jp

URL: www.messe-muenchen.jp (日本語) www.messe-muenchen.de (英語 / ドイツ語)